

※学校評価から見た学校経営の重点と努力内容 (502名/609名)

○温かみのある学級づくり

(6) 図校に行くのは楽しいと思う 図+D 6.4P 32名 → 図+B100%を目指す

(11) 図じめられたり、無視されることがなく安心して活動できている 図+D 2.4P 12名 → 0名を目指す

○満足感のある授業

(2) 図業はわかりやすいと思う 図+D 5.2P 26名 → 自分の教科はどうか

(3) 図業では、自分の考えを持ち、自ら取り組んでいる 図+D 10.0P 50名 → 授業改善を進める

(4) 図業では、自分で考えたことやわかったことを表現することができている 図+D 19.5P 98名 → 授業改善を進める

○心と体の教育の推進

(7) 図校や学年の行事に関心を持ち、進んで取り組んでいる 図+B 480名 95.6P → A+B100%を目指す

(8) 図徒会・委員会活動に関心を持ち、進んで取り組んでいる 図+B 408名 81.40P → A+B100%を目指す

(13) 図活動に目標を持ち、積極的に取り組んでいる 図+B 457名 92.1P → A+B100%を目指す

項目	<分析> ○成果、▲課題	<改善策> □後期(継続・改善)、■来年(発展・変更)
温かみのある学級づくり	○ 「さわやかな挨拶ができている」に対して「よくあてはまる」が45.2%と増加した。15.3%が「あまりできていない」と回答している。	□ 生徒会や各学年H代表の取組の成果が出ている。今後も引き続き「さわやかなあいさつ」を全校生徒ができるような取組を続けていくとともに、教師も自ら爽やかな挨拶を心がけ、温かい雰囲気を作っていきたい。
	○ 概ね安心して生活できている。先生の回答でポイントが低いが、いじめの認知件数が昨年同時期よりも増えているためと考えられる。	□ アンケートの継続とデイリーライフなどでも様子を見ていく。今後も積極的に認知していく。
	○ 「学校に行くのは楽しい」という肯定的回答が93.6%、否定的な回答は6.4%であった。前期より否定的な回答がわずかながら(0.5%)減った。	□ アンテナを高めて生徒の状況を把握し、情報共有、相談し、早急に開くことで楽しくない生徒がいない状況を目指す。学年職員は授業以外にも様々な場面を捉えてかわること、さらに、授業に出ていただく他学年の教員、部活の顧問など情報共有し、Q.Uの結果も活用したい。否定的な一部の生徒にも意識して関わっていく。
	▲ 「いじめられたり、無視されたりすることがなく安心して活動できている」では、全学年とも90%以上が安心して生活できている。	□ 「あたたかい学年集団」というキーワードを今後も継続して伝えていく。生徒と関わり続け、生徒の様子をつかむことやデイリーライフの記述を気にして、教員間の情報共有を今後も密にしながら、積極的生徒指導の方針を継続していく。安心して過ごせていない生徒を0%にしたい。
満足感のある授業	○ 生徒の授業アンケート「自分の考えを持ち、伝え合うことができる」は全教科を通してみると、肯定的な意見が88.9%→88.5%と変わらず高い結果になっている。	□ 「自分の考えを持つ手立て」を意識した授業づくりが教員の中で定着してきたことがうかがえる。これからも各教科部会で実践を共有し、「自分の考え」の内容や表現の仕方の質の向上を意識していきたい。
	○ 生徒の学校教育活動についてのアンケート「授業では、自分の考えを持ち、自ら取り組んでいる」の肯定的な意見は88.2%→90.0%と変わらず高い結果になっている。	□ 引き続き、子供主体の授業を意識して取り組んでいく。「よくあてはまる」の割合が1.2年生で低い傾向にあるため、基礎基本の定着や学習規律の徹底も意識しながら、生徒に委ねる部分を各教科部会で検討し、実践につなげていきたい。
	▲ 経年変化をみると、生徒の「読書が好きである」は増加しているが、保護者の「お子さんは読書が好きである」は減少している。生徒アンケートと保護者アンケートで、読書に対する認識にずれが見られる。数字から家庭ではあまり本を読んでいないと推測される。	□ 家ではあまり本を読んでいないと考えられることから、今後も学校で朝読書や様々な読書活動に取り組んでいく必要がある。
	▲ 生徒の授業アンケート「振り返る時間がある」は全教科を通してみると、肯定的な意見が87.7%→87.2%であり、「あてはまる」は32.8%→34.2%と少し増加している。生徒の学校教育活動についてのアンケート「授業では、自分で考えたことやわかったことを表現することができている(…)」は19.5%の生徒が否定的な回答をしている。	■ 1.2年生で否定的な回答が多い傾向にあり、来年度も気をつけてみていく必要がある。振り返りの場面での見取りや適切な指導についても、教科部会で実践、検証していきたい。また、教科による差や学年・学級による差も見られるので、教科を越えた実践の共有も引き続き行っていきたい。
心と体の教育の推進	○ 保護者と共に教育問題について考える機会や講演会的なもの良いと思う。	■ 今年も虐待防止や少年院の監察官が来て話をする機会があった。来年度も継続して実施予定である。
	○ 学校教育アンケートにて、行事への関心、生徒会・委員会への関心、美化に努めているのあてはまるの総数は前期より増えた。	□ 学校生活に前期より慣れたからということもあるとは思いますが、よい傾向なので、引き続き各方面の取組を続けていく。
	○ 「授業で、自分の考えを持ち、…」では、考えを持てる生徒が年を追って増えている。課題を理解し、徐々に積極的に取り組むようになっていく。「授業では、自分で考えたことやわかったことを表現…」でも同様に数値が向上している。	□ ペアやグループでの教え合いの効果により、考えを整理し、自分の考えに自信をもつことができやすくなった。小さな進歩を認め、褒める姿勢を継続していく。
	○ 自分の思いを素直に述べており、自分の意見を書いたり発表したことが自然にできている。	□ 校内研修を通して、子どもの実態から発問をつくる必要があると感じられた。今後も生徒のふり返りまでを見通した指導案を考えていきたい。
	▲ 教師も生徒も合意形成の仕方や多数決ではない、少数意見(誰一人取り残さない)も大事にした決断の仕方を学ぶ必要がある。そうしなければもっと活発な雰囲気になると思う。	■ 生徒議会や生徒総会のあり方を検討し、先生方で共通理解した上で行っていきます。
	▲ 活動前に生徒に「なぜ取り組むのか」「活動の意義・ねらい」など周知活動をしっかり行うことも必要。	■ 教師側もそれぞれの活動前に、意義やねらいをきちんと共通理解していくことを再確認したい。
▲ 学校教育アンケートにて、生徒会・委員会活動に関心を持ち、進んで取り組んでいる生徒の割合が、去年の後期と比べて少し減っている。(あまり当てはまらない生徒が合わせて20%近くいる)	■ 活動に全生徒を取り込めていないことが分かる。3年生は意識が高めなので、1・2年生を取り込んでいけるような指導を各委員会ですていく必要がある。先生方の委員会に対する姿勢もより積極的にしていきたい。	